

やる気発生装置

先生方とのお別れと、学校における「人」

きょう30日には、地域の中学校を中心に、多くの学校で先生方の離任式が行われています。詳しい異動内容については4月1日に新聞などで公表されますので、いまは一部の情報にとどまっていますが、授業や部活でお世話になっている先生方の離任は誰にとっても大きな関心事であるらしく、みんな数日前に学校で発表された離任教員のリストをチェックしているようです。

塾としても、まだ口外できないものが多数あるのですが、さまざまな学校で先生方が退職、異動、転任されるという情報がすでに入ってきています。つい先日には、そのうちのお一人、長年にわたって本当にお世話になったある私学の先生が退職されるということで、慰労のための食事会に参加してきました。これまで学校現場で教育や募集活動に携わってこられた経験を生かし、今後は新しいお仕事に取り組みれるとのこと。寂しさは否めませんし、なごりは尽きませんが、そこは先生のお人柄なのでしょう、あちこちで冗談も飛び交うにぎやかな会でした。仕事上のやりとりが無くなっても、こうしたさまざまな人間のつながりは続いていきます。塾をやっていてよかったなと感じます。

いくらデジタル化が進んでも、いくら均質な教育を保障するためにマニュアル等が整備されたとしても、こと学校や塾は、そこにいる「人」の個性によってどのようにも変化します。だからこそ、みんな例外なく「4月からどんな先生に教わるのか」に大きな関心を示すわけです。

いま、バスの運転士さんやスーパーの店員さんが「名札」をつけないところが増えてきています。個人名を出すことなく一職員として対応するということです。一方、公立学校の先生は異動があれば名前が新聞に公表されます。SNSなどを見ると、「なぜ私たちだけが！」とこれに不満を抱く先生の存在もあるようです。でも誤解を恐れずに言うならば、学校の先生は他の職業にも増して、「そのクラス、その授業を誰が担当するのか」が大切な、人間としてのありかたを求められる仕事だと思うのです。だからこそ名前が広く公表されるのではないかな、と僕は考えています。個人情報保護の流れが進めば、学校でも先生方の名前が消えて、担任の先生の名前を知らないまま授業を受けるようなことになれば…、余り想像したくないですが、それでは学校は根本的に違うものになってしまうそうです。



気温がどんどん上がり、京都のあちこちで満開に近い桜が見られるようになりました。4月に入って1週間くらいはもってほしいな、と思います。

当面の教室予定

3/30(月)~4/1(水)

16:00~22:00

4/2(木)~4/3(金)

10:00~12:00

16:00~22:00

4/4(土)

16:00~22:00

4/5(日)

16:00~21:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。